

風土記

《43》

愛媛県

も5月10日に

「宇和島空襲死没者追悼平和祈念式」が行われ、市民らが鎮魂の祈りと不戦の誓いをささげた。

宇和島市には

背景から書き起こした

を覆うばかりだった。

みどり寮から徒歩10分の場所にある「和霊公園」

には終戦までの空襲で犠牲になった272人の名前が刻まれた平和祈念碑が建てられている。今年

島市は45年5月から8月の終戦まで、米軍の爆撃機B29による9回の空襲によって、市街地の約7

割もが焦土と化した。空襲の最初となった5月10

日朝、みどり寮のある住吉町に隣接した朝日町を

中心に、B29からおびただしい100kg爆弾、250kg爆弾が投下され、

逃げ遅れた119人が直撃を受けたり、爆発に巻き込まれたりして、犠牲

者になった。その惨状は目



谷松豊繁 第4代理事長

主たる軍事施設はなかったが、戦局が悪化した44

（昭和19）年3月、松山海軍航空隊宇和島分遣隊

が置かれ、最盛期には予科練生、通信兵など約4000人が訓練を受け、

戦地に送られた。宇和島に予科練があつたこと

と、明治維新の十傑の一人で、幕末の兵学者だった大村益次郎の築いた砲台跡があつたことで、朝日町の運河を軍の施設と

間連え、船着き場めがけて爆撃したと言われている。そうでなければ、朝日町が空襲される理由がなかった。

朝日町の空襲を目の当たりにした宇和島厚生協会の第4代理事長、谷松豊繁氏（92）は、こう述懐する。「市中心部の住吉町と隣接する朝日町で最初の空襲があつた。そこで被害を受け、残された戦災孤児を、近くに住んでいた民生委員（当時

は方面委員）が引き取ったのが最初だった」。ほとんどの人が家を焼かれた中、民生委員たちは焼け残った家庭に孤児を連れて帰り、面倒をみたが、それも長くは続かず、一カ所に集めて生活ができるようにしたようだ。

民生委員の前身である「方面委員」が廃止された「民生委員令」が公布されたのは46（昭和21）年10月。みどり寮の母体になる民生事業団が組織された当時、宇和島市内には約55人の民生委員が在籍していた（愛媛年鑑）。

「あすの希望もなく、無残な生活を強いられ、さまよっていた戦災孤児を保護救済するため、民生委員が物心両面にわたって面倒をみた」と谷松氏は話す。

民生事業団発足当時、戦災孤児らの救済と保護の中心になったのは、55

年に法人認可された宇和島厚生協会の初代理事長、水口節義氏だった。

明治28年4月生まれの水口氏は宇和島市議会議員だった人で、第29代議長も務めた。現在は廃刊になった地元の日和島日日新聞に評伝が掲載されている。

「土建業界40年という経歴が物語るように、人物はなかなか練れている。しかも単なる土建屋さんではなく、社会事業にすいぶん力を尽くしている。いい意味での親分の肌男なのである。福祉施設の充実ということも真剣に考えている」。

同紙によると

民生事業団が組織された翌年の8月に「宇和島市民生委員会」が開かれ、会長に

水口節義氏が推された。みどり寮問題の応急対策を早急に樹立することを申し合わせた」との記事がある。昭和51年に法人の第4代理事長になった谷松氏も宇和島市議を6期務めた。初代理事長の水口氏について「市議会が一緒で、民生委員も一緒にやった。福祉の問題を共に語り合った仲間だった」と述懐する。

法人の理事長は、水口氏に続いて73（昭和48）年に藤田定吉氏が、さらに74年に佐藤徳造氏が第3代理事長に就任するのだが、2人とも初代の水口氏と同様に宇和島市議で市会議長や副議長を経験した人たちだった。第4代の谷松氏も市会議員経験者だったことを考え合わせると、みどり寮と市との関係の密接さうかがわされる。【澤晴夫】

和霊公園に建てられた平和記念碑



水口節義氏が推された。

みどり寮問題の応急対策を早急に樹立することを申し合わせた」との記事がある。昭和51年に法人の第4代理事長になった谷松氏も宇和島市議を6期務めた。初代理事長の水口氏について「市議会が一緒で、民生委員も一緒にやった。福祉の問題を共に語り合った仲間だった」と述懐する。

法人の理事長は、水口氏に続いて73（昭和48）年に藤田定吉氏が、さらに74年に佐藤徳造氏が第3代理事長に就任するのだが、2人とも初代の水口氏と同様に宇和島市議で市会議長や副議長を経験した人たちだった。第4代の谷松氏も市会議員経験者だったことを考え合わせると、みどり寮と市との関係の密接さうかがわされる。【澤晴夫】

戦災孤児の保護が始まり

1950（昭和25）年9月、民生委員による「宇和島市民生事業団」が組織され、戦災孤児を収容保護したが、みどり寮の始まりになる。

民生事業団が組織されて以降は53（昭和28）年12月に養護施設の認可、さらに55年4月に社会福祉法人の認可と続いていくのだが、まずは民生事業団が、戦災孤児らの収容保護を始めた時代的な

割もが焦土と化した。空襲の最初となった5月10日朝、みどり寮のある住吉町に隣接した朝日町を中心に、B29からおびただしい100kg爆弾、250kg爆弾が投下され、逃げ遅れた119人が直撃を受けたり、爆発に巻き込まれたりして、犠牲者になった。その惨状は目

背景から書き起こしたを覆うばかりだった。みどり寮から徒歩10分の場所にある「和霊公園」には終戦までの空襲で犠牲になった272人の名前が刻まれた平和祈念碑が建てられている。今年島市は45年5月から8月の終戦まで、米軍の爆撃機B29による9回の空襲によって、市街地の約7割もが焦土と化した。空襲の最初となった5月10日朝、みどり寮のある住吉町に隣接した朝日町を中心に、B29からおびただしい100kg爆弾、250kg爆弾が投下され、逃げ遅れた119人が直撃を受けたり、爆発に巻き込まれたりして、犠牲者になった。その惨状は目

宇和島厚生協会（上）



みどり寮（昭和30年）

間連え、船着き場めがけて爆撃したと言われている。そうでなければ、朝日町が空襲される理由がなかった。

朝日町の空襲を目の当たりにした宇和島厚生協会の第4代理事長、谷松豊繁氏（92）は、こう述懐する。「市中心部の住吉町と隣接する朝日町で最初の空襲があつた。そこで被害を受け、残された戦災孤児を、近くに住んでいた民生委員（当時

焦土の中 方面委員ほん走



水口節義 初代理事長

同紙によると

民生事業団が組織された翌年の8月に「宇和島市民生委員会」が開かれ、会長に

水口節義氏が推された。みどり寮問題の応急対策を早急に樹立することを申し合わせた」との記事がある。昭和51年に法人の第4代理事長になった谷松氏も宇和島市議を6期務めた。初代理事長の水口氏について「市議会が一緒で、民生委員も一緒にやった。福祉の問題を共に語り合った仲間だった」と述懐する。

法人の理事長は、水口氏に続いて73（昭和48）年に藤田定吉氏が、さらに74年に佐藤徳造氏が第3代理事長に就任するのだが、2人とも初代の水口氏と同様に宇和島市議で市会議長や副議長を経験した人たちだった。第4代の谷松氏も市会議員経験者だったことを考え合わせると、みどり寮と市との関係の密接さうかがわされる。【澤晴夫】